
楽園で血塗れた乙女

美奈夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

楽園で血塗れた乙女

【Nコード】

N3262U

【作者名】

美奈夜

【あらすじ】

とある妄想によって生み出された場所

極度の恐怖で色素の抜け落ちた紅い目

恐怖を体験した際に肩にかかる程の髪は黒から白へのグラデーショ
ンをつくってしまった

頭皮に近い程、白く、白く移り変わる

紅を覆い隠す睫毛は本来の漆黒を保つ

その少女は、名をアーレッタという

少女は楽園に寝そべっていた

指を空へ差し出せばアルビノの小鳥がとまる
空腹になればリンゴやパンを食べればいい

少女が食べ物に困ることはまず無い

そこらへんに、必要な物は全てそろっていた
少女の傷を癒すのは動物達だった

周りに人はいなかった

いつも昼で夜は来なかった

少女は暗闇を極度に嫌った

自分自身でも理由はわからなかった

ただ、一度経験した暗闇はふつふつと憎しみをわき上がらせた
少女は感情を知らなかった

言葉を発することは少なかった

人が来ることはほとんどなかった

人が来ることに並ならぬ恐怖を感じた

誰かが自分へ触れる前に小屋に籠り、誹謗中傷罵詈雑言を浴びせた
幼い声は必死に人を拒絶した

人が来た日は必ず泣き腫らした

目蓋は痛々しく腫れ、声が嘎れた

純白の服は涙で透けた

布越しに見る自分の体に恐怖を覚えた

気付けば少女は乙女になっていた

未だ底知れぬ恐怖心は治まっていなかった

人が来る回数は多くなった

彼女の声は細く丈夫なものとなった

人は来るのをやめなかった

人は数人で来るようになった

彼女はリンゴとパン以外を口にしなかった

何故か髪が伸びることは無かった

彼女の色合いが変わることは無かった

彼女は其処を『楽園』と信じて疑わなかった

また人が来た

逃げる前に腕を掴まれた

「アーレッタ、僕らと一緒に町で暮らそう」

見知らぬ男達は彼女の腕を飽くまで優しく掴んでいた

彼女は驚愕した

「厭だぁッ!!」

彼女は叫び小屋へと竄った

感じたことの無い位激しい鼓動に彼女は倒れた

目が覚め、小屋から外を見た

人が居た気配すらしなかった

彼女は不安を覚えた

彼女は恐怖を知った

ここは楽園だと言い聞かせた

楽園では、如何なる恐怖を感じようとも実現したりはしないのだ
体の震えは治まらなかった

また、動物達へ会いに行った

鹿が、紅くなっていた

目を押さえた

暗闇が見え、押さえることをやめた

鹿に触れると、紅は服へ手へと次々体を染めていった

遠い昔、感じたことのある匂いが鼻を掠めた

ただ涙が溢れた

震えは止まらなかった

手で頬を押さえ、頭を掻き抱き、地に伏した

歯がカチカチと音を鳴らした

声が、出なかった

現実になつてしまった

「アーレッタ」

顔を上げると、沢山人が居た

見たことのあるのも、知らないのも居た
一番見覚えのある男が、手を差し出した

「アーレッタ、一緒に町で暮らそう」

何も言えなかった

「町には、君を知っている人も、親戚だつて沢山居る」
言っていることが理解できなかった

人が近付いてきた

「っ知らない！お前達なんか！厭だ！お前達は！！」
ふと、服の紅が目についた

ああ、

これは、

これを、

この子を殺つたのは、

此処を汚したのは、

あり得ない、

だつて、

だつて此処は、

「楽園を壊したのはお前達だあッ！！！」

アーレッタ・トーナ

齡4にして火災で家族と家を失い、

放火魔を目撃した彼女は精神を崩してしまう

暗闇で起きた事件^{こと}に対する極度の恐怖及びストレス

それによって煩った暗所恐怖症、対人恐怖症、血液恐怖症

そして子供恐怖症

錯乱したアーレッタは火災の後すぐに町外れの丘へと駆けて行き、
丘を楽園と名付け、己の妄想だけで閉鎖的そして理想的空間を造り
出す

アーレッタの親戚達、友人達はアーレッタを説得しに行こうと試み
たが、

自分たちを見ると騒ぎだす幼気な少女に同居を強いることは出来な
かった

町の住人は一ヶ月に一度交代でアーレッタに会いに行った

リングとパンだけの食事だが、アーレッタは完全な妄想で栄養を補
っていた

努力も虚しく14年が経過し、とうとう強制的に彼女を町へ連れて
行くことを決める

だが、越して来たばかりの狩人によって撃たれた鹿を見た彼女は再
び錯乱した

泣き叫び鹿の血に塗れた彼女を住人は保護し、精神医師によって用
意された家へと連れて行った

完全に発狂した彼女はその二日後に息を絶った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3262u/>

楽園で血塗れた乙女

2011年10月2日23時02分発行